

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3474200304		
法人名	有限会社 トツツ		
事業所名	グループホーム ふぁみりい		
所在地 (電話番号)	広島県世羅郡世羅町大字本郷965-1 (電 話) 0847-25-5027		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年1月30日

【情報提供票より】(21年 1月 5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 7 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 11.9	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 2 階建て、1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	光熱等18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	入居申込金50,000円 保証金180,000円	有りの場合 償却の有無	償却3年 月5,000円
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 72 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立世羅病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

備後地区で、各種介護事業所多数を展開するトツツ系列のグループ・ホームである。「共に感じ、共に生きる」を理念として、利用者には可能な限り「これまで通りの暮らしができる」ことにこだわったケアがなされている。食事効率化を求めて外注化が進む中、3食手づくり、献立、食材購入から調理まで「利用者と一緒に」が実践されている。利用者には明るく、元気な方が多い。食事の下ごしらえや後片付けに動く利用者の様子は、職員と見間違えるほどだ。緑豊かな田園の中、近くには病院、学校、スーパーなど恵まれた環境にあり、利用者にとって、ゆったりと自分らしく暮らすことができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は①重要事項説明書への苦情申し越し可能第三者機関の明記、②チームでつくる介護計画へのご家族参加、③災害発生時、地域住民の協力体制づくりであった。①②は改善された。③は改善取り組み進行中である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価もホームの現状課題を確認するいい機会ととらえ、全職員に考えさせ、記入させる形で実施された。改善も徐々に進んでいるが、充分とは言えない。改善課題は全職員で共有し、改善に向け全職員で取り組むための仕組みづくりを期待したい。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご家族、民生委員、世羅町職員、包括センター職員などがメンバーとなって一昨年スタートさせたが諸般の事情で昨年は開催できなかった。今後は、まずは核となるメンバーを中心に、2ヶ月1回の開催が望まれる。また、他の実施例なども参考に徐々に会議の質を高め、災害時の地域連絡網づくりや環境整備の推進など、サービス向上に活かせる「会議づくり」が期待される。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族との面会時、受診結果、生活状況、金銭管理などできるだけ詳しい報告を行なうようにしている。なお、健康状況の変化などは必要に応じその都度連絡している。事業所便り「ひだまり」も3ヶ月毎定期的に郵送配布している。ご家族の苦情や意見はできるだけ、言いやすい雰囲気をつくり管理者が直接聞くよう心がけている。苦情などがあった場合、迅速に対応し運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭り、盆踊り、とんどや敬老会など地域行事にはできるだけ参加している。また、ボランティアの方に来てもらったり、できるだけ地元の店を利用することや近隣と親しく挨拶を交わすなど、地元交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に生きる」が基本理念として設定されている。利用者が地域の一員として、可能な限りこれまでと同じ暮らしが続けられるケア活動が目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議や日常のケア活動を通じ、常に意識付けを行い、共有化がはかられている。職員は常に意識し、疑問に思ったときは、管理者やリーダーに問い返ししながら、日常ケア活動に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、盆踊り、とんどや敬老会などの地域行事にはできるだけ参加している。また、ボランティアの方に来てもらったり、できるだけ地元の店を利用することや近隣と親しく挨拶を交わすなど、地元交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施することの意義、重要性は理解されている。今回の自己評価もホームの現状課題を確認するいい機会としてとらえ、全職員に考えさせ記入させる形で実施された。改善は徐々に進んでいるが、取り組みはまだ充分とは言えない。	○	改善課題は全職員で共有し、改善に向け全員で取り組む仕組みづくりを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員、世羅町職員、包括センター職員などがメンバーとなって一昨年スタートさせたが、諸般の事情で昨年は開催できなかった。	○	核となるメンバーを中心に、全員出席でなくとも、まずは2ヶ月に一度の開催が望まれる。また、他の実施例などを参考に徐々に会議の質を高め、災害時の地域連絡網づくりや環境整備の推進など、サービス向上に活かせる「会議づくり」が期待される。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは報告や相談を通じてできるだけコンタクトをとるよう努力している。地域ネットワーク会議への参加や保険者との調整も行なっている。認知症アドバイザーの届出も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族との面会(少ない人でも月一回)時、受診結果、生活状況、金銭管理などできるだけ詳しい報告を行なうようにしている。なお、健康状況の変化などは必要に応じその都度連絡している。また、事業所便り「ひだまり」も3ヶ月毎定期的に郵送配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の苦情や意見はできるだけ面会時、言いやすい雰囲気をつくり管理者が直接聞くよう心がけている。苦情などがあつた場合、迅速に対応し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係をつくることを重視したケアを目指しているがやむを得ず異動・退職する場合もある。慎重な人事配置を行なう共に、話しかけや見守りを密にすることでダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベル別の研修体系に基づいた育成取り組みがなされ、必要な内外研修の受講がなされている。新人については育成ノートにより育成状況や課題検討がなされ、現場教育が行なわれている。また、これにより新人が受け入れやすくなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員に対し、同業者との交流会や勉強会への参加を啓発しているが実態としてなかなか参加できていない。敷地内のディサービスや同業他社の来訪時、意見交換などは積極的に行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、本人やご家族とも充分話しあいながら工夫している。本人の希望や要望を聞き徐々に慣れてもらう、必要であれば体験利用してもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される一方の立場におかず、できることをやってもらいながら、人生の先輩としての話を聞き教えをうけ、一緒に過ごすなど支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向、生活歴は入居時(簡単なフェイスシートかセンター方式シートを使用)本人やご家族から聞き取るよう努めると共に、その後も本人との会話を通じて把握に努めている。可能な限り本人の思いや意向に沿った暮らしができるよう取り組んでいる。		日常のケア活動を通じて得られる思いや意向(不安、苦痛、嬉しいことなど)を個人記録として残し、利用者情報を更に充実されるよう望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりがより良く暮らすためにどうあるべきか、カンファレンスを開き、本人、ご家族で充分話し合い、それぞれの意見を聞いた上で、介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険更新時の他、健康状況などに変化が見られたとき、ご家族と関係者で充分話し合い、現状に即した新たな介護計画を策定している。	○	日々の介護記録を基にした定期的な(3～6ヶ月毎)モニタリングと計画見直しの実施とそのための仕組みづくりが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族からの要望には、できるだけ柔軟に対応するよう支援している。敷地内他施設の行事参加、体力状況に合わせた他施設での機能訓練参加などの支援をすることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医は直近の公立世羅病院、昼夜を問わず相談できるようにしている。また、本人やご家族の希望によりこれまでのかかりつけ医でも受診できるよう支援されており、無理に提携医に切り替えることはしていない。定期的な受診に職員が同行するなど、関係づくりにも努力されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、「利用者が24時間医療が必要になったときは退去(入院)していただく」ことが確認されているが、これ以外ではできるだけ利用者の意向に沿うことを方針としている。申し出があれば、その時点でご家族、担当医を交えて充分話し合い、方針を決めることにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを傷つけるケアにならぬよう細かく配慮している。介護計画や記録などの個人情報は一箇所で管理され、極力実名が外に出ない取り扱いがなされている。写真などもご家族の了解を得てオープンにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調などにも配慮しながら、その時の本人の気持ちを大切に、その人らしく過ごせるように支援している。ただし、閉じこもりにならぬ配慮も必要である。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は同じ食事を一緒にとりながら、何気ない介助が行なわれている。できる人には準備やあと片付け、人によっては味付けや下ごしらえもやってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夜と利用者の希望を聞き、可能な限り希望に沿った入浴をしてもらっている。人によっては入浴剤を入れゆっくり楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に合わせ、食事の準備、後片付け、洗濯ものの整理、繕い物、カーテンの開閉などをやってもらっている。楽しみごとでは、月行事、遠出、食事会、地域交流の場づくりなど、できるだけ一人ひとりが役割や気晴らしの機会が持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は勿論、買い物と一緒に出かけたり、ご家族と一緒に外出や買い物など、できるだけホームに閉じこもらぬよう心がけている。食材購入なども意識的に買い物回数を増やし外出機会をつくるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は理解されており、日中の玄関や居室は施錠されていない。いつも所在確認をしながらのケアが心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火災害管理委員会を設置しており、消防署の指導の下で定期的に避難訓練を実施している。また勉強会も行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを見ながら管理者が、調理は職員が交代で行なっている。一人ひとりの能力や状況に合わせた調理も行われている。食べる量や水分摂取量はおおよそ把握・記録され、状況に応じた対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所と広く明るいリビングルームは食事と団欒に使われている。和室の居間には掘り炬燵もあり家庭的でなじみやすい。手づくりの作品や季節の飾りつけもなされ、全体として居心地いい共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。作品や思い出の写真なども飾られ、掃除もゆきとどき、利用者にとって居心地よく過ごせる場所となっている。		

NPOインタッチサービス広島

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふぁみりい

(ユニット名)

評価年月日 2008 年 12 月 15 日

記入年月日 2009 年 1 月 5 日

記入者 職 介護リーダー 氏名 杉原 幸枝 他

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ 共に生きる」を基本に、家族・地域とのつながりを大切に、社会的関係を断ち切ることなく援助していく運営理念を掲げている。買い物・美容院・行きつけの店へ、その人らしく暮らしていけるように支えている。理念がある。	○ 買い物・美容院・行きつけの店へその人らしく暮らしていけるよう続けていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取り組んでいる。 管理者やリーダーに指導を受けながら実践に向け取り組んでいる。 日々のケアの中で、理念をもとにより良いケアが出来るよう努めている。 理念が玄関に掲示されており、何かの折には再確認されている。	○ 指導を受けながら実践に向けた取り組みを続けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	取り組んでいる。	○ ご家族や地域の人々により理解していただけるよう、ご家族・地域の方との付き合いを深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	努めている。 お会いしたら必ず挨拶を心がけている。 隣近所の方でよく来てくださる方もいる。	○ 挨拶を続けていきたい。 地域の子供たちにも気軽に立ち寄ってもらえるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元での敬老会への参加。夏祭り(廿日胡見学、盆踊りetc)への参加・見学。 努めている。 地元のお店に利用者と一緒に買い物に行っている。	○ 引き続き例年通り、各行事に積極的に参加したい。ボランティアの人たちの協力のもとに行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状では余裕が無く、地域貢献はなかなか難しい。ホーム内で出来ることに目がいていて、地域へのはたらきかけについての話し合いを持っていない。特にしていない。	○	利用者の力を活かして、役立つ事を見つけない。将来的には、地域の認知症ケアの拠点として、家族会や認知症サポーターの育成などが行なえるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組む必要がある。自己反省で終わってしまっている。	○	スタッフ間での会話。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいきたい。評価の結果を事業計画やスタッフの育成の指針として具体的に活用する。自己評価については個人で記入する方法をしているが、全員で意見を出し合うなどの手法を変え、自分達の出来ていることを認め合ったり、改善点について共有をし、日々のケアやサービス向上に繋がるようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やワーカーの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をサービス向上に活かしていかなければいけない。運営推進会議には出席したことが無い。	○	定期的に開催できるようにする。リーダー-職ばかりでなく、直接ケアに当たっているスタッフも運営推進会議に参加する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の管理者が主に地域ネットワーク会議への参加や保険者との調整をしている。	○	直接ケアに携わっている職員も地域ネットワーク会議などへ参加し意識を高める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用していた方がいたが、詳しくは分からない。権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、個々の必要性を話し合う機会をもっていない。必要な人には活用されていた。	○	成年後見制度などについては、もう少し詳しく学びたい。制度の理解から事業所内、外の研修への参加啓発をする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	皮膚状態に異常があれば、職員同士確認し合い申し送りなどで伝達し介護時の内出血等に気を付けるようにしているが、減る傾向に無い。注意はしているが、原因が確認できない内出血が利用者に出てくることもあり、その際にはスタッフ間で注意を促しあう。管理者、リーダーに報告や相談をしている。何が虐待に当たるかに気がつかないスタッフがいると思う。	○	虐待が見過ごされることの無いようにしたい。利用者の状況はもちろんのこと、スタッフのストレスなどにも注意をする。閉鎖的な空間を作らないようにする。利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように、引き続き利用者は勿論、スタッフの精神状態などにも注意を払い、防止に努めたい。虐待については定期的な研修や事例検討などを通し、予防から対処の方法までスタッフ全員が対処できるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談受付時よりサービスの内容、料金などは説明を行い、申込の受け付けや契約をしている。現在、相談受付や申込、契約については管理者が行なっている。	○	契約に至るまでに、相談が合った場合なども十分な説明が出来るようにしたい。介護保険制度を理解する。定期的な研修(介護保険の制度や他のサービス等の内容、グループホームについて、自施設のサービスの特徴など)を行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満が有る様なら、その都度傾聴し伝達している。入居されても、担当のケアマネジャーが訪問したりして気にかけてくれているため、苦情などが全く外部者へ表せない状態ではない。常に傾聴には心掛けている。	○	利用者の話の主訴を掴み、分析をして解決に取り組む。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来所された時報告もしている。健康状態はすぐに報告している。定期的な事業所の新聞が配布されている。している。面会し来所されたら居室にお茶を持って行き、話す機会をつくっている。	○	時々に応じた報告を続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満がある場合、傾聴・伝達している。している。面会し来所されたら居室にお茶を持って行き、話す機会をつくっている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段や職員会議で発言の場が有る。運営者に対しては、ミーティングの内容やスタッフの状況等必要に応じて管理者より報告している。スタッフ全員の意見や提案を聞く機会はなかなか取れないが、出来るだけ聞き、反映できるようには努めているが十分ではない。運営などの問題になると、常勤・非常勤など違いを言訳に言及しないスタッフもいると感じる。スタッフの意識の違いがあり、意見や提案をするスタッフは限られている。	○	職員の中には不満があっても、管理者にはなかなか言えない人もある様に見受ける。言い難いことに関しては無関心を装うスタッフもいるが、日頃から自分達の働く事業所のサービスの質や運営などに対して、もっと良くすると言う意味で意見や提案をすることは問題ないと思うので、そういうスタッフの育成をする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の要望や状況に見合うように勤務形態などは、管理者、リーダーを中心に勤務時間帯についての話し合いをしている。ケアに当たっているスタッフから提案や意見が上がってくることも有り調整がしやすい。スタッフの個人都合による勤務調整については対応してもらっている。スタッフの急な用事等にも、交代要員があれば応じてもらえる。	○	ユニットリーダーを中心にユニットの状態や利用者個々の状態の把握を継続し、柔軟に対応が出来るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく変わらない様にしてある。管理者・スタッフとも利用者とのなじみの関係を作ることに重きを置いて介護を行っている。各ユニットが固定メンバーになるよう努めているが、雇用形態や休日の希望などで難しい場合がある。人事異動などが必要な場合は、運営者と管理者間、また、管理者とリーダー間で提案、意見交換がなされている。事業所の管理者・ユニットリーダーがスタッフ個人個人の資質・経験年数なども考慮したうえで、配属を考え、話し合いもと決定し、利用者への影響を最小限に留める努力をしている。運営者へは、リーダー会議などの内容を報告している。		利用者が馴染みのあるスタッフから支援を受けられるよう、ユニットのスタッフを固定する。人材の確保。現段階でスタッフの固定が難しいので、スタッフひとりひとりがどの利用者とも馴染みの関係を作る努力も必要。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会になかなか出席出来ない。事業所内においては新人指導ノートにより、育成状態の確認や課題検討がされている。運営者は法人及び事業所内外への研修参加へは理解がある。現場での指導や、事業所での研修会等の実施は行なっているが、担当者が限られている。段階に応じた指導や指導者に対するスーパービジョンが不足していると感じる。研修会を年に数回行なっている。また、働きながら資格を習得が出来るようにしている。法人では、レベル別の研修体制作りをしている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会や勉強会などの案内が通知されたり参加を促されている。管理者は、地域内で行なわれている研修会・勉強会・交流会などへの参加啓発を行なっているが、勤務状況によりケアに当たるスタッフの参加が困難な場合もある。敷地内に他のデイサービス等もあり、事業所外の同業者の来訪があり、意見交換などを行なっている。	○	同業者との交流や、施設の見学等してみたいと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	良くならないとの意見がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働きたい。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでは管理者が対応している為、ケアに当たるスタッフが関わりを持つのは入居されてからとなる。相談から利用までに、ご本人及びご家族と面談を行ない主訴の把握や身体状況の確認などを通して関係作りを行なっている。スタッフの相談技術の向上(共感や主訴の把握)。ケアスタッフが入居前の面談から対応が出来ることが望ましいことは解っているが、人員配置、スタッフの指導不足にて対応が困難。	○	本人の困っている事・不安なこと・求めていることを聴く。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があれば上司に伝えるようにしている。相談に来られた際にはしっかり聴くようにしている。相談から利用に至るまでは管理者が対応している為、ケアに当たるスタッフが関わりを持つのは入居されてからとなる。相談から利用までに、ご本人及びご家族と面談を行ない主訴の把握や身体状況の確認などを通して関係作りを行なっている。スタッフの相談技術の向上(共感や主訴の把握)。ケアスタッフが入居前の面談から対応が出来ることが望ましいことは解っているが、人員配置、スタッフの指導不足にて対応が困難。	○	スタッフの相談技術の向上(共感や主訴の把握)。利用者との家族の方との信頼関係をしっかり築けるように注意を払いたい。話す機会を作っていきたい。
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に現在の状況、ご家族、ご本人の主訴を確認しながら、必要な支援、他のサービスの紹介などを行なっている。ケアスタッフでは応えられないこともあるので、相談は管理者が受け付けているが、相談があった場合には必要時王を報告、対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	工夫している。パットの使用についてもいきなり始めるのではなく、納得した上で利用している。雰囲気にならぬようにコミュニケーションを工夫している。体験等の利用。	○	納得した上でのサービス、本人が安心して利用が出来るよう取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶の時間など人生の先輩である利用者の方の意見を聞かせて頂いて学んでいることも多々ある、料理や洗濯など、出来ることは一緒にしながら生活していけるよう努めている、とケアスタッフは日々利用者を介護される立場におかない努力をしている。施設内の行事には極力参加して頂き、楽しみを増やしているつもりである。	○	一緒にいる時間を利用者の方と共有する場として、学んだり支えあう時間として過ごしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている。所内の行事に案内状を出し共に楽しんで頂けるようにされている。支援される一方の立場におかないようにスタッフは努めているが、対処困難ケースや様々な理由もあり、一緒に本人を支えていく関係は築けていないと感じる。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	している。心配事等があれば、電話にて相談している。ご家族に連絡を取るまでに、初期面談をしている管理者に相談や確認をしたり、家族と本人との関係の理解に努めている。	○	家族様の気持ち・ご利用者の気持ちをよく理解するため、ご利用者・家族様とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。馴染みの店での買い物、美容院も行きつけの所へ行ってもらっている。入所前からお寺に参られていた利用者に、年に何度かスタッフと一緒に参りに行っている。	○	馴染みの店や美容院の利用の支援を続けたい。面会時、気持ちよく来て頂けるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士が会話できる時間を作っている(検温時やおやつ時はできるだけリビングに出て頂いている)。介護度にもよるが、一人ひとりに生きがいを持って頂く様子を配っている。利用者同士の関わり合いの見守り、トラブル防止に努めている。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じては、契約終了後も関係を維持するように努めている(管理者)。ケアスタッフがサービス終了後に会うことがない。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している。 傾聴している。	○	
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	CMの方達からこれまでの暮らしの状態を聞いて、その方に適したより良いサービスが提供できるように計画をしてもらう。努めている。 相談・判定・記録を見て把握に努める。 子供の頃の話や、昔やっていた仕事の話等はしている。入居時把握するようにしている。	○	相談・判定・記録を見て把握に努めていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。 記録等を見てひとり一人の過ごし方を把握している。 有する力は有ると思うが、特定の人の仕事と思い込まれている為、口出し出来ない部分が有り発揮できていない。	○	心身状態・現状を把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	している。アセスメントが実施されている。	○	
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	している。必要に応じて見直されている。定期的には出来ない。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の生活状態をこまめにチェックし、介護記録に記録して職員間で把握できるようにしている。日々記録に記入している。就業前には必ず、自分がいなかったときの記録に目を通すようにしている。情報を共有し、管理者・主任に相談しつつ見直している。	○	介護記録に洩れが無いように詳しく記録していきたいと思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所はGH・デイサービス・小規模多機能と施設が充実しているので、要望に応じて支援ができる。している。D.Sなどの行事にも参加。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで踊り・手品を楽しんで、機会があれば出かけて行かれ楽しんでおられる。民生委員の方やボランティアの方とは協力しながら支援をしていると思う(2)。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のサービス事業者と協力をしてもらえるようにしてあるが、中にはそれを知らないスタッフもいる。系列の事業所であればDSの利用継続をしたり、レクリエーション活動へ参加する。ケアマネジャーと連絡をとるなど本人の意向に応じたサービスを支援している。	○	スタッフが介護保険制度や事業所のサービス内容を理解したうえでの対応が必要。今まで通われていたDSなど地域のサービス事業者との連携。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談や助言を受けるようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の方で対応して頂いたり、スタッフが同行したり往診をお願いしたりしている。入居以前からのかかりつけ医、本人の希望の医療機関での受診をしている。受診に付き添い診断や治療を受けている。家族とも相談しながら、かかりつけ医の指示に従っている。	○	本人の今までの経過を把握しているかかりつけ医の受診を引き続き受けられるように支援していきたい。医療と事業所の関係を築いていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	早い段階で治療を受けて認知症の進行を止められるように、診断を受けてもらえるようにしたい、利用者が認知症に関する診断・治療を受けられるように支援したい、等スタッフの意見はあるが、郡内に専門医がない。必要があれば専門医への受診をかかりつけ医の紹介の下行になっている。	○	スタッフがその支援に必要な知識、技術を身につける。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフは入院された際どのような状態か分かりにくい、との意見もあるが、利用者が入院治療が必要になった場合も、スタッフによっては様子を観に行ったり、出来る限り早期退院できるようにしている。必要があれば付き添いをするなど、医療機関のスタッフへの認知症高齢者ケアのフォローと情報交換。協力医療機関とは、地域医療連携室を通して連携が取れている。	○	環境の変化に対する理解と、継続して支援していく体制の確保。認知症高齢者の抱えている様々な問題を理解し、日々のケアを行なう。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、以前事業所内で話し合う機会を持った。家族と連携してやっている。していない。できるだけ早い段階から、終末期のあり方について話し合う機会をもっていきたい。	○	終末期ケアを行なえる体制作り。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行っていない。事業所の出来ること、出来ないことの見極めができていない。	○	かかりつけ医の指示のもとにスタッフ間・家族の方達とよく話し合って終末期に向けてより良い支援ができるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。フェイスシートを確認したり、その時々で対応し ている。	○	別の居所へ移られる場合、精神面に十分に考慮してい きたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	していない。着替え中にドアやカーテンを閉める、訪室の時ノ ックする等対応している。記録は実名を書かない。利用者の誇 りを傷つけない様声掛けには気を付けている。プライバシーに ついては守秘義務を守っている。自分が介護される立場なら と、考えながらケアしている。記録は他者の実名を書かない。	○	職員は利用者個人々のプライドを傷つけるような態度・言 葉遣いに細心の注意を払い対応するように常に心がけ る。個人情報の保護とプライバシーについての違いを理解 できていないこともあると感じる。気をつけているスタッフと 「していない」と感じているスタッフがおり、研修が必要と感 じる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり 納得しながら暮らせるように支援をしている	している。利用者の思いや希望をよく聞く。聞かれることにわ かる力を合わせて説明している。言葉だけで納得できない 場合には品物を見せて説明をしている。着替えの時等、自 分で衣服を選んで頂いている。散歩など本人の意思にて行 うようにしている。利用者が話しやすい環境を作れるよう努力 している。言葉に出来ない人も、注意深く反応を見る。全部が 全部、十分な納得が得られているとは感じない。	○	納得して暮らしていけるよう説明していく。利用者様の 気持ちを理解できるよう日々観察し、信頼関係が築ける よう努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	している。その日々で利用者の調子も違うので、その人の ペースに合わせて過ごしていただく。希望に副ってばかりいと 居室に閉じこもる事になりかねないので、職員側のペースに合 わせがちなためである。	○	その人のペースに合わせて過ごしていただく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよ うに努めている	利用・美容に関しては出張サービスを利用したり、個々の馴染 みの店に行かれている方は希望通り外出して利用してもらっ ている。努めている。配色に気を付けている。汚れている衣 服は着替えてもらっている。理・美容は家族の相談で決定 している。	○	外出しないからといって、身だしなみを気にしない方がい るのは良くない。集団生活なのだから互いに注意を払って 清潔な身だしなみで気持ちよく生活できるように支援した い。配色に気をつけたい。いきつけの店の利用。身だし なみの支援。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	している。一緒に炊事や準備したり、今まで家でされていたので教えてもらったりしている。一緒に食事をするによって好みを知っている。片付けについても、利用者と協力して片付けている。片付けは一人の人に任せることが多い。	○	食事の準備。一緒に食事をしながら食材・作り方を説明する。楽しくおいしく、一緒に食事を摂っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	している。本人の好きなものは日常的に楽しみにされるように支援する。おやつや飲み物は何が良いか聞いてから出すように努めている。買物に行き本人の好きなおやつを購入し、食べたい時に食べて頂いている。家族の許可が有る限り支援している。こちらの決定で、おやつ等提供している。	○	本人の好きなものを日常的に楽しみにされるように支援したい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	している。排泄・記録にいつも目をやり、気持ちよく過ごせるように心掛けている。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。安易にオムツは使わないようにしている。把握・理解しきれていないと感じる。	○	ひとり一人の力や排泄のパターンを知る。排泄のパターンは掴めているように感じるが、排泄ケアの知識(個々の状態に見合った用品を紹介できるような知識)を高める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	している。ひとり一人の希望時間に合わせて、その人が好きな時間に入浴できるよう工夫している。介助が必要な方もあるので時間が限られており、本人の希望通りにはなかなか行かない。なるべく希望に添えるように調節している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	している。生活習慣・状況に応じて支援している。気持ちよく眠れるように寝具の洗濯はこまめに洗うように心がけている。電気や冷・暖房等、本人の希望に合わせている。夜眠れない時はホットミルクなど、温かい飲み物などで工夫している。日中傾眠がよくみられる場合、居室へ誘導し横になって頂いている。ずっと居室におられたいであろう方もなるべく施設の時間に合わせてもらう事が多い点→ <u>スタッフの感じ方の相違??</u>	○	生活習慣・状況に応じて支援している。気持ちよく眠れるように寝具の洗濯をしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	D.Sを利用されたり地域の人達との交流が気晴らしの支援につながるように個人の希望で一人で外出されている。している。所内にこもらないようにドライブ、買い物等にお誘いしている。散歩に出たり、縫い物が好きな方には破れてしまった衣服を縫ってもらったりしている。洗濯物の世話や、カーテンの開閉などもして頂いている。張りのある生活をして頂きたいが、難しい。活かしきれてはいない。	○	所内にこもらないように外出にお誘いしたい。張りのある生活を提供したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	している。一人ひとりの希望に応じて、所持したり使えるように支援している。利用者がお金を持つ大切さを理解し、利用者本人が払出・入金・支払いが出来るよう支援している。受診の際自分で払われている利用者もおられる。花やおやつを買いたい時は、スタッフと車で出掛け買われている。	○	一人ひとりの希望に応じて、所持したり使えるようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	している。散歩に出掛けられたり、手紙を出しに行ったりしてもらっている。買物や散歩に出掛けられるよう支援している。買物には出られているが、もう少し散歩等をする位の余裕が欲しい。	○	散歩や郵便を出しに出掛けていかれるよう支援する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月毎の行事で例えば紅葉狩りでは今高野山、新年会では温泉、花見へは桜の名所と車で外出している。している。家族の方と一緒にの外出、町のイベント・個別にも出掛けられるよう支援している。買物や散歩に出掛けられるよう支援している。展示会等利用者様の意見を聞き、一緒に出掛けている。近隣ではあるが天候のよい日等は出掛けたりする事がある。	○	家族の方との外出、町のイベント・個別の外出も支援したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングの電話を自由に利用されているし、郵便も頼まれれば投じている。している。ご本人が希望される時に電話等して頂けるようにしている。注意のいる人には通話時それとなく会話を気にする。特に働きかけはしていない。	○	お孫さんに手紙を書いて、家族の方が来られた際渡してもらう。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方が自由に時間も関係無しで訪ねて来られている。している。訪問されたとき年齢等考え、お茶の内容を工夫している。ゆっくり話が出来るようお茶を出したりしている。良く面会に来て下さる。笑顔で対応するよう心がけている。	○	訪問された方が気分良く過ごして頂けるように、又気軽に何度でも訪ねて下さり、利用者さんに喜んでもらえるように努めている(2)。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。正しく理解し、身体拘束していない。ベットの柵など気を付けている。	○	取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。自分から鍵を掛けられる場合を除き、居室や玄関は開けている。スタッフは鍵を掛けることによる利用者様の精神弊害を理解しており、居室・日中の玄関には鍵をかけていないし、所在確認をしていれば鍵を掛ける必要もないと思う。本人がプライバシーを気にされる時は鍵を掛けられるが、職員はいつでも開けられる状態である。日頃からスタッフの努力、協力、理解があり、行動抑制を目的とした施錠は行なわれていないし、	○	常に所在確認をしていれば、鍵を掛ける必要も無いと思う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮している。 昼間の訪室はノックをするなどの配慮が出来る。夜間帯は少し入口を開けて声・物音が聞こえるようにしている。利用者の所在確認や、居室におられる時にも時々様子を見に訪室するようにしている。 夜間も巡視を行っている。利用者様のその日の精神状況も考えながら、所在・様子を把握している。	○	昼間の訪室はノックして、夜間帯は少し戸を開けて声・物音が聞こえるようにしたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	している。 スタッフの見守りの中、危険を防ぐよう努力している。 煙草などは家族の要望などにより、管理している。	○	一人ひとりの状態に応じた管理をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる。 所在確認、一定の場所での喫煙、薬の日付・名前の確認、誤嚥、ベッドやソファからの転倒にも気をつけている。 転倒・誤薬が時々ある。事故の無いよう気をつけてはいるが、最良かどうか分からない。	○	細利用者の時状態の把握とスタッフの予測能力を指導したい。心の注意を払い、万が一事故がおきた時は冷静で速やかに適切な処置が出来るようにしたい。事故防止、起きた時の対応など学びたい。 杖を使用される方にも気を付けていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行っている。 ヘルパー取得受講の時のみ。 応急手当の研修には参加したが、定期的に訓練はしていない。急変や事故発生時の対応・応急手当・対処法などスタッフの研修をして欲しい。 自信が無いので、定期的に訓練して欲しい。事業所だけでは困難なこともあり、積極的に外部研修を受ける努力もしてほしい。	○	定期的に消防署などと連携して研修をする。いつか、では無く今と言う意識を持って仕事をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練している。 漠然とした避難イメージしか無い。	○	地域の人達との連携、合同の訓練などあれば良い。 避難訓練に必ず参加して身につける(2)。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に話し合っている。 その都度家族に伝えている。	○	家族の方にリスクについて説明し、抑圧感の無い暮らしを大切にしたい対応等を話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録に詳細に記録し申し送りをしっかりしておく。 速やかに対応している(2)。検温時の異変、訪室時、倦怠感など注意して気付いた時速やかに連絡する(4)。 スタッフ間のコミュニケーションをしっかりと、介護記録にしっかり記録し伝達も忘れないようにしている(2)。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。 診療録を見たり、受診された時用量・薬が変わった事が無いかに注意している。	○	一人ひとりが服用されている薬の理解に努め、服用確認を怠らないようにしっかり支援していきたい(2)。 病状の変化に注意。 全部は把握してはないので努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。 排便チェック、水分量確認、散歩。 食事の際にしっかり水分を摂るように勧めている。 利用者に合わせてセンナ茶を使用している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持に努めている。 毎食後一人ひとりの口腔状態を頭においてその人の力に応じた支援をしている。 食後は声掛けし口腔ケアして頂くが、介助の要る方には介助をしている。 個人の能力を十分に把握していないため、行く届いていない。	○	食後の歯磨きをしていただけるように、しっかり促したい。 大切な口腔ケアなので忘れないように介助する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態に応じて水分の摂りづらい利用者にも、好みを考え工夫し摂って頂くようにしている。 食事や水分摂取量の記録をしている。 食事の際にしっかり水分を摂るように勧めている。 太りすぎた人やカロリー制限のある人等には、適量を考えて出している。	○	ひとり一人それぞれの量や状態をドクターや本人の希望を取り入れて栄養状態が落ちないように食事を摂取していただくように支援したい。 栄養バランスを考え、食べ残しを一口でも勧め食べてもらう工夫をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	外出先から帰所されたら、手洗いとうがいを促している。食器は毎回、殺菌消毒を敢行。 受診時等のマスク装着・消毒。インフルエンザ予防接種。 ノロウイルス対策には食器などの殺菌消毒。	○	インフルエンザ摂取。受診時のマスク装着、帰所時の手洗い・うがい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている。 夜間帯の食器消毒、台所は塩素系の漂白剤を入れて拭き掃除。食材は毎日買い物に行っている。 買った食材はすぐ冷蔵庫に入れる。	○	夜間帯の食器消毒、塩素系漂白剤での台所掃除。買った食材はすぐ冷蔵庫に入れる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鍵を掛けず自由に入出入りできるように努めている。玄関に花を生けている。 玄関や中庭に、花や野菜を植えている。 植木鉢など置いている。 特になしていない。	○	花壇に花を植える。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には季節の花や野菜を皆で植え、部屋の窓から眺め季節を感じてもらっている。明るく日当たりも良い。 日光が眩しい時はカーテンを閉めたりしている。 その時期に合った飾りや写真等も拡大して、思い出作りとして貼り出している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり気の合った利用者同士でトランプを楽しんだり、会話をされたり買い物に行ったりされている。 テーブルや椅子以外にも、和室やソファがある。 利用者の方同士で話したり出来るようにしている。	○	独語が続く人があるため、それが気になる人には安らぎの場所にはなっていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 ご本人が使い慣れたもの(タンス等)を使用して頂いている。 家族と相談しながら、使い易くしている。居室の模様替えなどは、本人に相談するようにしている。	○	北側の部屋の人は、南側に比べて日当たりが悪く気の毒である。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に応じこまめに行っている。 室温調節は天気予報に注意し配慮している。 におい等に気付いた時には換気をしている。リビングが外気温と差がある場合がある。 あまり外気と差が無いようかつ不快でないよう努めている。 起床後居室から出られる際に、窓を開け換気を行っている。	○	天気に注意し室温調節をしていきたい。 リビングなどの温度調節。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫されている。 廊下やトイレに手すりが付いている。 特にしていない。	○	一人で出来ることを尊重して自立の支援が出来れば良いと思う。 トイレや脱衣所に手すりが有ればと思うことがある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	工夫している。 心配事等は傾聴。 排泄などは時間を決めている。	○	出来るだけ話を聞いて理解に努め、出来ることの手伝いが出来れば良いと思う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作ったり畑を耕して野菜等を栽培している(3)。 活かしている。	○	今まで土に親しんで来られた方達が多いので花を植えたり、野菜を植えて収穫の楽しみを味わって頂きたい(3)。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の話をよく聴き、相談して思いに近づけるようにしている。

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふぁみりい

(ユニット名)

評価年月日 2008 年 12 月 15 日

記入年月日 2009 年 1 月 5 日

記入者 職 介護主任 氏名

利信 真五

自己評価表

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に生きる」を基本理念として、施設内行事だけでなく、地域で行われている行事などへの参加を通し、昔から親しんできたことや楽しさを感じて暮して行けるよう支援している。	○	地域の中で暮らし続ける事を支えていくサービスとしての理念の実践をしていきたい。地域行事への参加。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は理解できている。理念を共有し、実践に勤めているが全ては実践出来てはいない。月に1度のミーティングを行っており、意識・理念の共有は出来ている。管理者に疑問に思うことは問いかけをし、管理者の思いを理解し日々のケアを行なっている。スタッフの経験年数によってばらつきがあると感じる。	○	管理者、リーダーが、日頃から基本理念の実践と言う観点から指導や助言をする。日頃からスタッフ間での会話を大切にする。申し送りの時間を有効に活用する。管理者と積極的に話をし、考えを深めていきたい。スタッフの教育体制を整え、早期段階より理念の浸透、実践に向ける。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方を招いての行事をおこなったり、地域行事への参加を行っている。自分達の理念を理解してもらう様にはしているが浸透は薄いと感じる。地域のボランティアに協力してもらい、地域行事に参加するなど、理解してもらえように取り組んでいる。事業所で地域行事に参加するなどの企画を考え実施している。	○	利用者が地域の中で暮らし続けられる事をもっと大切にしたい。家族が施設に訪問された時に話をしていく。日頃から地域で暮すことを意識して外出や行事に参加していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方に出会った際は、挨拶をするように心掛けている。地域の行事に参加したりして、グループホームがどんな所かが徐々に地域に浸透していると感じる。秋祭りや亥の子の行事などでは、神輿や子供が立ち寄ってくれるようになった。気軽に、とまではいかないが、馴染みの人などは尋ねてきてくれる。日常的な付き合いは少ないと感じているスタッフもいる。	○	散歩や買い物の時笑顔で挨拶をしていく。外出する際等こちらから地域の方への話しかけ。行事の企画など地域のボランティアに呼びかけたりしその際の会話などを大切にする。隣近所の付き合いが出来ればよい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	廿日胡、盆踊り、組内のとんど、敬老会など地域行事には参加し、地元の方との交流をする機会がある。地域行事、地域活動には出来る範囲で参加している。自治会に加入してなく地元の人との交流は少ないと感じるが、秋祭りなど地域行事等の折には、地域の方が立ち寄りたりしてくれるようになり孤立しているとは思わない。地域のボランティアを活用している。		地域行事の把握と参加。地域の行事にもっと多くの利用者が進んで参加できるよう努めていく。自治会などの地域活動にも参加。地域の子供会や敬老会等に参加していく。行事、地域活動、老人会等に参加を勧める。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の利用者支援に留まっている。取り組みは無いと思う。		将来的には、地域の認知症への拠点として、家族会や認知症サポーターの育成などが行なえるようにしたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用・評価の意義と理解				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価とも具体的な改善には繋がっていないこともある。スタッフの経験年数などによってばらつきがある。自己評価の意義は理解しているが評価を活かせていない。考えてはいるが評価基準を見て忘れかけている気持ち等を再確認することが出来る。	○	スタッフ間での会話。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいきたい。評価の結果を事業計画やスタッフの育成の指針として具体的に活用する。自己評価については個人で記入する方法をしているが、全員で意見を出し合うなどの手法を変え、自分達の出来ていることを認め合ったり、改善点について共有をし、日々のケアやサービス向上に繋がるようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度定期的な開催が出来ていない。運営推進会議に参加したことがない（直接ケアに当たっているスタッフが）。		定期的に開催できるようにする。リーダー職ばかりでなく、直接ケアに当たっているスタッフも運営推進会議に参加する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の管理者が主に地域ネットワーク会議への参加や保険者との調整をしている。		直接ケアに携わっている職員も地域ネットワーク会議などへ参加し意識を高める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を活用されていた方がいらっしやっただけで制度については理解している。相談窓口程度は理解している。外部の研修などがあれば参加できるよう案内はしているが、実際に参加しているスタッフが少ない。制度自体を理解しているスタッフが少ないと思う。		制度の理解から事業所内、外の研修への参加啓発をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については、事業所が閉鎖的な空間にならないように日々指導や助言をしている。日頃からスタッフの会話やスタッフの行動の把握を心掛けている。誰か一人に負担がかからない様スタッフ間で助け合ったり、利用者への接し方を日々話し合いをするなど虐待のないように努めている。虐待はしてはいけない事であって、事業所内でそういう実態に触れたことが無い。利用者の精神状態や皮膚状態などの身体状態を良く観察し、予防や早期発見に努めている。	○	利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることの無いよう、引き続き利用者は勿論、スタッフの精神状態などにも注意を払い、防止に努めたい。虐待については定期的な研修や事例検討などを通し、予防から対処の方法までスタッフ全員が対処できるように努める。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談受付時よりサービスの内容、料金などは説明を行い、申込の受け付けや契約をしている。現在、相談受付や申込、契約については管理者が行なっている。	○	契約に至るまでに、相談が合った場合なども十分な説明が出来るようにしたい。介護保険制度を理解する。定期的な研修(介護保険の制度や他のサービス等の内容、グループホームについて、自施設のサービスの特徴など)を行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中で聞いて確認している。利用者が不満に思う事を聞いたら上司に伝えるようにしている。外部には言っていないがスタッフに言う事は聞き対処している。出来るだけ利用者が話をしやすい様に努力している。入居されても、担当のケアマネジャーが訪問したりして気にかけているため、苦情などが全く外部者へ表せない状態ではない。利用者が直接管理者に苦情などを言いにくくもあり、苦情等が全く表せない状態ではないが、すぐに対処できることを対処していなかったりすることがあるように感じる。利用者の意見不満苦情はあるが反映まではいっていないと思っているスタッフもいる。		日頃からコミュニケーションをしっかりととり、利用者スタッフとの関係が一方的な関係にならないようにしている。利用者の希望をもっと理解し実践したい。もっと話を聞く時間を作り対応していきたい。困っている事があればいつでも話の出来る雰囲気を作る事。元気が無かったり、考え事をしておられるようだと感じたらこちらから声を掛ける。不安な事、求めている事をよく聴くようにしている。本人から聴く機会があまり無いが受け止める努力はする。利用者の不満や苦情を運営に反映できていないと感じているスタッフがいるということに対して、きちんと状況を把握する必要がある。スタッフ個々の相談技術の向上(主訴が掴めず、それが元で苦情に繋がっている事がある)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方が面会に来られた際に受診の結果・日常生活等の報告をするようにしている。金銭管理も出納帳を付け面会時などに確認をしてもらっている。職員の異動についてはわからない(ケアスタッフより)→職員の異動については、問合せが合った場合に答えている。		スタッフによっては、利用者の家族状況などを把握できていない場合もあり、利用者の家族の顔をきちんと覚え、対応をしていく。担当を明確にしてご家族とのかかわりを深めていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と日々の話の中で、管理者が対応している。また、入居前のケアマネジャーとの関係を保っていただくようにケアマネジャーなどにも依頼しており、事業所に言い難いことはケアマネジャーなどを通して苦情などの情報を収集し、対処している。(管理者) 外部には言っていないが、職員には言ってもらうようにしている。家族とは会話をし聞くようにしている。家族の意見の場を設ける事は無いと思っているスタッフもいる。(直接ケアスタッフ)		家族の意見の場を設ける事は無いと思っているスタッフもいるため、苦情や不満などの対処についてご家族との関わりについてきちんと把握をする必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者に対しては、ミーティングの内容やスタッフの状況等必要に応じて管理者より報告している。スタッフ全員の意見や提案を聞く機会はなかなか取れないが、出来るだけ聞き、反映できるようには努めているが十分ではない。運営などの問題になると、常勤・非常勤など違いを言訳に言及しないスタッフもいると感じる。スタッフの意識の違いがあり、意見や提案をするスタッフは限られている。		自己評価の段階で、この設問に対し回答できるスタッフを育成したい。常勤・非常勤の違いを言訳にしているスタッフもいるが、自分達の働く事業所のサービスの質や運営などに対して、もっと良くすると言う意味で提案や意見をすることは問題ないと思うので、そういう意味で責任を持って働けるスタッフを育成をする体制を作りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットリーダーを中心に、利用者やユニットの状況、勤務体制を把握し勤務時間などを調整している。日々の勤務についてはシフト表にて調整をしている。受診など利用者家族の都合の悪い時は職員が対応するなど、可能な限りは調整している。	○	ユニットリーダーを中心にユニットの状況や利用者個々の状況の把握を継続し、柔軟に対応が出来るようにする。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・スタッフとも利用者とのなじみの関係を作ることに重きを置いて介護を行っている。各ユニットが固定メンバーになるよう努めているが、雇用形態や休日の希望などで難しい場合がある。人事異動などが必要な場合は、運営者と管理者間、また、管理者とリーダー間で提案、意見交換がなされている。事業所の管理者・ユニットリーダーがスタッフ個人の資質・経験年数なども考慮したうえで、配属を考え、話し合いもと決定し、利用者への影響を最小限に留める努力をしている。運営者へは、リーダー会議などの内容を報告している。		利用者が馴染みのあるスタッフから支援を受けられるよう、ユニットのスタッフを固定する。人材の確保。現段階でスタッフの固定が難しいので、スタッフひとりひとりがどの利用者とも馴染みの関係を作る努力も必要。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は法人及び事業所内外への研修参加へは理解がある。現場での指導や、事業所での研修会等の実施。研修会を年に数回行なっている。また、働きながら資格を習得が出来るようにしている。法人では、レベル別の研修体制作りをしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域内で行なわれている研修会・勉強会・交流会などへの参加啓発を行なっているが、勤務状況により77に当たるスタッフの参加が困難な場合もある。敷地内に他のデイサービス等もあり、事業所外の同業者の来訪があり、意見交換などを行なっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な休日、連日勤務にならないようにしている。ストレス軽減の為に環境作りは無いと感じているスタッフがいます。	人員の確保。日程の調整。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々のスタッフの習熟度などの状況は管理者より運営者に対しての報告が為されている。職員数が少なく、向上心があっても技術や知識の研鑽に対する時間が取れないのが実際である。また、その状況も運営者には報告をしている。スタッフの意識の差が明確になっている(目標を持たずに働いているスタッフもいる)。各自が向上心を持ってするしかない。	スタッフ一人ひとりが自分の明確な目標を持って働く。管理者・リーダーがスタッフのレベルにより役割や担当を決め、向上心が持てるようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでは管理者が対応している為、77に当たるスタッフが関わりを持つのは入居されてからとなる。相談から利用までに、ご本人及びご家族と面談を行ない主訴の把握や身体状況の確認などを通して関係作りを行なっている。	○	
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでは管理者が対応している為、77に当たるスタッフが関わりを持つのは入居されてからとなる。相談から利用までに、ご本人及びご家族と面談を行ない主訴の把握や身体状況の確認などを通して関係作りを行なっている。	○	・家族等が困っている事、不安な事など聴く機会を作る様にしたい。・家族が遠方にいてなかなか面会に来られない場合、近くでもあまり面会に来られない家族との話す機会が少なく電話などの対応を心掛ける。・家族とあまり話す機会は少ないが受け止める努力はする。
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアスタッフでは応えられないこともあるので、相談は管理者が受け付けているが、相談があった場合には必要事項を報告するなどの対応をしている。相談を受けた時に現在の状況、ご家族、ご本人の主訴を確認しながら、必要な支援、他のサービスの紹介などを行なっている。	○	
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申込前にご本人やご家族に施設を見学してもらったり、必要があれば体験利用をしてもらうなど、入居もご家族と相談し、出来るだけご本人が納得した上で利用が出来るよう心掛けている。家族へもそのように説明をしている。本人の希望や要望を聞き徐々に周りの雰囲気馴染んでもらう様にはしてある。		認知症の程度にもよるが、ご本人が納得したうえでサービスの利用となるように、ご本人、ご家族との関係作りをする。希望に沿ったサービスを心掛け、意見を聞きながら満足した生活が出来る様に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来る事を活かし、生活の中で共に楽しめるような関係を築けるように努めている。本人の出来る事出来そうな事を見つけもらい、出来る喜びしてもらえる喜びを感じてもらえる様努めている。利用者と一緒に日々料理を作ったり、洗濯物をたたんだりしている。本人より今まで生きてきた出来事等話を聞きながらスタッフも学んでいる。日常生活においてスタッフと利用者が一緒に過ごすうち相手を分かり合え学んだり支えたりする関係が出来ている。	日常での作業を手伝ってもらったり、分からない事等を本人に聞いたりしながら、一緒になって作業する。まだ聞き出せる事があるかもわからないのでもっと時間にゆとりをもって関わり続けたい。職員はサービス提供や清掃だけでなく話を聞く時間を持つ事も大切な事であり、少しでも心が癒され支え合う関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	要所要所でご家族と話す機会を持ち、利用者を一緒に支えていける様に努めている。ご家族に出来ることはご家族にお願いしている。まだ家族の方との関係は不十分で、より良い関係までいけていないと思う。	○ 来所時に会話をし本人との会話では聞けない事等を聞き、より良いものを目指す。もっと家族の方と話をし本人をどのように支えていくかを話し合える関係を築いていきたい。家族との会話。常に生活を共にしているのは職員であるから、信頼され何でも話し合える関係を築いていきたい。利用者が暮らしやすい様に家族の人から話を聞きだす
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○ ご本人とご家族のの関係については面会の時などのかかわりを見ながら理解に努め、注意すべき関係などは、事前に申し送りなどで把握している。ご家族が面会に来られた際にはゆっくりと話が出来る環境を作るようにしたり、必要があればスタッフがご本人との間に入るなどの支援もしている。本人が家族と過ごせる機会を作る。本人とは会話する機会はあるが家族との会話が少ない。	受診や行事への参加の呼びかけ。家族、本人との会話を持つ様にしたい。本人が一番待ち望んでいるのは家族の面会である事を家族の知っていただき時間の許す限り面会をして頂く様にお願いしている。（特に面会の少ない家族）後家族に対して認知症を理解してもらえるような機会を作る。面会時にご本人の暮らしぶりを伝える。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後は馴染みの場所に行ったり、人と会うことが少ない。馴染みの方と外出をしてもらったり、電話等での関係を自由に出来る様にしている。本人の希望があれば本人の体調に合わせ馴染みの人、場との関係を保つよう支援はある。本人・家族と話をし、何がいいかどうしたらいいかスタッフ間で話をする。デイサービスなどを利用されていた場合、本人、家族との相談の上、引き続きデイサービスの利用リハビリ水泳等希望に応じている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフは利用者の人間関係を良く把握している。利用者同士が仲良く過ごせるようにつとめている。少人数の共同生活の場であり、利用者によっては他の人の行動を干渉しがちになったり、難聴の方の会話の誤解があるが、関係が悪くなりそうな時にはスタッフが間に入るようにしている。日常、行事等で共同作業を通し楽しみながらやってもらう。レクリエーション、食事の場なるべく孤立の無いようにはしているが一部出来ない事もある。介助の必要な方への理解と思いやりをもってもらえる事、支え合って生活していくように努めている。		利用者の人間関係の把握。食事作り、運動会（行事）等での力を合わせて行なうことへの取り組み。お互いに支えあいながら一緒に生活をしていることを利用者自身が感じれるように、日々の支援をする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じては、契約終了後も関係を維持するように努めている（管理者）。ケアスタッフがサービス終了後に会うことがない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話から希望や意向の把握に努めている。本人から希望を聞いた時は、一人で判断せず必ず相談をし出来るだけ希望を叶えられる様に努めている。今までしておられた事をそのまま続けて暮らしていけるよう努めている。日常から会話等を記録。ケアプランに基づいてしている。一人ひとりの思い暮らし方の希望、意向をもう少し把握したい。利用者の希望が叶わない事も話をし納得の出来る話かけをしていきたい。	○	もっと利用者の気持ちをつかめる様にしていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と話をしたりして把握するようにしている。フェイスシートやご家族との会話の中から把握できるように努めている。これまで暮らして来られた環境と大きな変化が生じないよう趣味、リハビリ等引き続き行ってもらう。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフは利用者一人ひとりの生活パターンや心身状態の変化の兆候などを把握している。記録などから心身状態を把握出来るように努めている。記録に残す。毎日の行動のリズムをつかめる様努力している。		日々の生活や行動、発言等を記録に残しスタッフ間で話し合う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフが集まり意見を出し合い計画を作成している。カンファレンスを行い、本人に合った介護・支援が何かを話し合いながら計画を作成している。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時に話し合いをし計画の見直しをしている。必要に応じて見直し、変更を行なっている。本人、家族と話をする。	電話や来所時に家族と話をしたり、本人と話をしている。体力が低下したり、意欲低下など場合等計画外の介護が必要になるため計画外の介護をしている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録をつけ気付き等細かい所まで書くようにしている。自分の勤務でない日の記録にも目を通すようにしている。1日3回(日勤、遅出、夜勤者)申し送りを行い変わった事、数日間の出来事、様子等を報告しあい情報の共有をしている。記録を読み、日々何があったか確認している。毎日一人ひとり記録に残している。介護記録に個別記入、業務日誌の活用。申し送りでは把握できないスタッフもいる。	申し送りの時間を有効に利用する。まだ見落とししている事があるかもしれないので気をつけて見る様にする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等から要望がある際には、その要望に少しでも応える事が出来るようにしている。事業所だけではなく、併設事業所や地域資源、その他のサービスの利用なども視野に入れて対応している。利用時間の調整、身体状態に合わせて機能訓練をする。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事等でボランティアをお願いすることがあるが頻度は少ない。急病の時は消防へ連絡している。定期的に民生委員の面会がある。地域の行事へ参加する時などは、ボランティアの協力がある。	家族や知人のいない利用者は民生委員にお願いする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のサービス事業者に協力をしてもらえるようにしているが、中にはそれを知らないスタッフもいる。系列の事業所であればＤＳの利用継続をしたり、レクリエーション活動へ参加する。ケアマネジャーと連絡をとるなど本人の意向に応じたサービスを支援している。		スタッフが介護保険制度や事業所のサービス内容を理解したうえでの対応が必要。今まで通われていたＤＳなど地域のサービス事業者との連携。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談や助言を受けるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人のかかりつけ医との関係を無理に断ち切らないようにしている。体調に変化があった際には状況をみて受診をするなどの体制があり、適切な医療が受けられるように心掛けている。定期的な受診にはスタッフも同行するなどし、かかりつけ医と事業所との関係作りをしている。定期的にかかりつけ医の受診を行い家族に報告する。薬の管理、服用確認、状態観察を行っている。		受診等へのスタッフ対応。受診に同行できない場合の医療機関への情報提供。受診時の対応などスタッフの育成が必要。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	郡内に専門医がないが、近隣の専門医との連携体制がある。かかりつけ医を中心に専門医への紹介などをしてもらう。特変あれば都度Ｄｒ．に相談している。専門医の活用。	○	利用者が認知症に関する診断や治療を受けれる様にしたらよいと思う。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	受診に行った時程度しか看護師と話をしないが、協力医療機関では、利用者の事がグループホームへ入居されていることを知っていてくれるので日常的な健康管理など相談はしやすい。		事業所に看護職員がいないため、地域に利用者を良く知る看護職員が欲しい。併設施設の看護色との連携がもう少し取れればよいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療が必要となった場合には、入院準備をし必要な情報を提供しているが不十分なこともある。入院中は電話や訪問にて本人の状態の確認と医療スタッフとの情報交換。協力医療機関とは、地域医療連携室を通して連携が取れている。	○	ケアスタッフが医療機関ともっと情報交換を行える様にしたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアについての指針が明確でない。家族やかかりつけ医と話し合いはしたことがないが、スタッフ間ではどのような対応をするか話し合うことがある。現状や予後の対応等を話す。家族に意向については必要に応じてご家族に確認を取っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフ間で話し合いをしている。かかりつけ医には必要な場合は指示を仰いでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いはしたことがない。実施あり。	○	・もっと住み替えによるダメージを防ぐ様にしたい。 ・ご本人が安心して別の場所に住まれる事を納得して頂ける様何度も話し合い不安な気持ちを軽減出来る様努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを考えながらいつも声掛けをするように努めている。個人情報も注意して取り扱っている。一人ひとりのプライバシーや個人情報を守るようにしている。名前を呼ぶときに「さん」を付けたり敬う言葉使いをする。親切にやさしい対応をする。訪室の際は必ずノックをする。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が理解出来るような言葉を選び説明している。利用者の意見を聞く様にしている。本人のしたい事を聞き出して出来る事は相談の上実行している。	利用者の表情などを確認しながら、言葉を使い分ける。もっと話しやすい言葉掛けをし本人の希望を言ってもらえるようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を把握する様にし、利用者を第一としてとして行動している。利用者から頼まれた事は後回しにせず、すぐ出来る事は実行している。一人ひとり自分のペースで過ごしておられる。一人ひとりが自分のやりたい事を自由にリビングあるいは居室でしながら過ごされている。又、体調の悪い方には訪室にてバイタルチェックしたり水分補給していただく。利用者の希望に沿った生活をしていただけるよう外出、外泊、買い物、受診等の支援をしている。中には一人ひとりのペースに合わせているつもりでも、こちらの都合に合わせてもらっている時の方が多いように感じているスタッフもいる。1日のスケジュールをスタッフが把握していない場合があり、利用者が混乱することもある。	○ スタッフの心にゆとりが持てるようにスタッフの人数配置。一人ひとりのペースをもう少し大切にするようにしたい。頼まれた時の時間や忙しい時は、無理な事時もあるので時間を有効に使い時間を作っていきたい。外出をほとんどしないで暮らしている利用者と買い物等一緒に出掛ける機会を作るよう努めたい。その日の日程、状況等を考え本人へ。何が楽しみで何が気晴らしになるのか聞いてみる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室等は本人が昔から通っている所があればそこへ行けるようにしているが、最近は訪問美容に来られるのでそれに頼りがちである。月に1度訪問美容にて行き、本人の訴えある際対応している。本人の望む理容美容に行ける様にしている。訪問美容を利用されるため身だしなみは出来ている。又、行きつけの理容を利用される利用者もある。頭髮については訪問理美容や行きつけの美容院などを利用しているが、普段の身だしなみなどいまひとつ支援が足りていないと感じることもある(衣類の汚れ、釦のかけ違いなどに気が付かない)	訪問理美容や行きつけの理美容院を利用。日頃から利用者の姿を良く見るようにして、衣類の汚れや釦のかけ違いなどに気を配れるようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備や後片付けをしていただいている。出来る方に関しては、味付けや下ごしらえ等をしていただく。利用者と一緒に食事準備や片付けをしている。食事やお茶の時間に利用者の好みを伺いながら、出来るだけ残さず食べて頂ける様に盛り付けにも気を付けている。	昼食、夕食の準備。今の状態を続けたい。出来る事が何か考えて出来るだけ一緒に食事の仕度をしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、10時15時と決められた時間に出しているが本人が自己管理されているものには特に制限していない。訴え時や、時々買い物への声掛けをするなど、利用者がお酒やタバコ等を楽しめる様支援している。一人ひとりの好きな物を、出来るだけ聞いている。お茶の時間は何が飲みたいか聞くようにしている。酒、タバコ等を嗜好される方には日常生活に取り入れている。事業所から出すおやつも利用者と買い物に行く。	まだ本人の好みを聞いてもいいかも。出来るだけ一人ひとりの好みの合う飲み物を出してあげたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン通りには行かない事もあるが、出来るだけトイレにて排泄していただけるように努めている。トイレ誘導や声掛けを行なっている。時間、日付があかないよう排泄チェックをして対応している。前の時間を確認しトイレ誘導をしている。・尿、便失禁を減らすよう排泄のパターンをつかみトイレで排泄をするようトイレ誘導する。安易にオムツを使用しない。失禁などが合った場合もさりげなくフォローが出来ている。	○ トイレに行きたいという時は行ってもらうようにする。このままの状態を続ける。もっと排泄時間をしっかり確認しリズムをつかんでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人が入浴したい時間帯に入浴できるようにしているが、こちらの都合で入浴していただく事もある。個々に入浴の声掛けをしている。本人の希望を優先（出来る限り）。入浴剤の利用など入浴を楽しめる様に支援している。午前午後、夜と希望に合わせて入浴時間をとっている。	○	日中通し入浴可能な状態にして対応。一人ひとり入りたい時に入ってもらう様にしたい。今の状態を続けたい。入浴の嫌いな利用者の方に入浴が楽しめるよう自分から入浴したいと声を掛けてくださるようになるよう取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休めるように心掛けている。昼夜逆転のないように努めている。必要があれば日中でも短い臥床時間を作るようにしている。夜間数回の巡視、夜勤者の配置。今までの生活の把握をして消灯時間などを調整している。一人ひとり休みたい時に休んでもらったりしている。リビングで傾眠されている時は声を掛け居室にて休んでもらう様話をしている。食事やおやつの時間以外は自由時間がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味活動に十分対応できていないので、張り合いのある生活は支援が不十分だと思う。年に数回の外出、遊びや食事(外食や弁当)、ボランティアによる踊りの実施。リビングでは食事おやつ時のみ過ごし、居室ではテレビを観たり寝て過ごしている利用者に対して趣味などを活かして張り合いのある生活をしてもらいたい。	○	何をしたいのかお聞きし出来る事はしていきたい。趣味や行きたい場所、したい事が出来る体制を整える。限られたスタッフだけではなく、全員で取組んで行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には持ってもらい買物などで使えるようにしている。利用者の状態に応じて自己管理か預かるかの判断し、出来るだけ支援している。希望した時にお金を使える様にしている。		利用者の状況に応じて自己管理している。利用者間での貸し借りはしない様話をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。スタッフが見守りながら食事作りや買い物に一緒に行ったり日常生活で出来る事をして頂く様に支援している。	食材の買出しには出掛けるが、それ以外は出る人は少ない。散歩に行かれる際は必要に応じてスタッフが付き添う。早めに希望、要望を把握し出来る限り対応している。車で買い出しや行楽地への外出を時々している。買い物に行く時は声掛けし、一緒に行ける所には一緒に行く様にしている。家族と外出、買い物に一緒に行く。一人で外出できる利用者は散歩、買い物、自宅にと出掛けられる。事業所に閉じこもらないように心掛けているが、身体状況によっては事業所で過ごすことが多い利用者もいる。	○	一人では困難な方に対してはスタッフ付添いにて対応。時間を上手く使い買い物だけでなく行きたい所に行けるなら行きたい。ある程度のスタッフが必要(人数)。一人で買い物に行けない利用者の買い物は時間をみて一緒に買い物に行くようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を企画し、温泉施設などへ外出するようにしている。家族の方より利用者との外出希望あれば対応する。希望がある利用者については、出来る限り対応をしている。	○	年に数回家族ぐるみの行事を企画し参加してもらう様案内をする。利用者が家族と一緒に外出できる様にしたい。時間やスタッフの人数がいれば外出の機会を増やしてあげたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者には電話が使えるようになっている。家族、知人等と電話のやり取りが出来る様支援している。個々に自由に出来ている。手紙を郵便局まで一緒にポストに入れたりする。利用者一人ひとり気楽にいつでも電話出来る様リビングに電話が設置してあり利用されている。		今のままの状態。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際は居室などでゆっくり過ごせるようにしている。家族・知人・友人等気軽に面会出来る様にしている。自由に訪問されている。面会に来訪された時にはお茶を出すなど、来られた方がゆっくりと過ごせるように工夫している。		来られた方に対しての配慮。来訪者も居心地良く過ごせる様に時間、場所の提供が出来ればいい。現状維持。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない様努めている。何が身体拘束になるのか指導や話をする。利用者の思う様に動いてもらう様にしている。どのような内容をかかげてあるのかわからない。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかけておらず、利用者が自由に行き来できる環境にしている。居室は、鍵をかけたい場合は本人にかかけてもらっている。居室をあけたり外出の折には自室に鍵をかけるが行動を抑制するための施錠は行っていない。	○	今の状態を続ける。自宅で常に鍵をかけて生活しておられた利用者がその習慣から居室にいる時も鍵をかけておられる。鍵をかけないで居室で安心出来る様取り組みたと思う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在を把握するようにしている。昼夜、利用者の所在や様子の把握、安全に配慮する様にしている。一人ひとりに気を向けて出掛けられる時等声掛けをしている。駐車場など戸外に出られた時も時間をみて確認している。転倒の危険性のある方にはセンサーや鈴を使用。居室から出てトイレに行かれる時の様子に注意する。居室から出られないような場合はノックして声を掛けたり訪室する。・安全確認に努力している。	○	今の状態を続ける。一つの事に集中せず常に気配りしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	やたらと物を取り上げないようにしている。観察を怠らないようにしている。注意の必要な物品等は必ず近くにいる様にしている。タバコの管理（マッチ、ライター）、利用者の通帳金銭刃物などの管理。消毒液など危険な薬剤については、利用者の手の届かない所に保管している。	○	今以上に気を付ける。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故のないように常に注意を払って仕事をしている。利用者が居室等で過ごされている際にも巡視をし、その方がどのような状況で今を過ごされているかを把握、想定し業務を行なう。火災、誤薬、窒息、転倒のないよう見守り、気を付ける。誤薬の無い様服薬確認を必ず行う。業務中は大丈夫と決めつけるのではなく「事故が起こるかもしれない」と注意を払っている。	○	スタッフが一人ひとりの状態をしっかり把握して事故防止に努める。徐々に勉強していきたい。転倒防止のため床や畳の上に衣類やつまずくようなものがある時は一緒に片付ける。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行なえておらず、応急手当や初期対応ができないスタッフもいると思う。外部研修の啓発は行なったが、参加したスタッフが少なかった。	○	消防署との連携で定期的に指導や訓練を受ける。利用者の急変等に備え、応急手当をしっかり覚えたい。その時慌てないよう教えてもらいながら勉強していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の講習へ参加し、必要な知識など知っている。定期的にとまでは行かないが避難訓練をしている。地域の方への働きかけは行っていない。	○	定期的に避難訓練をする。昼夜を問わず災害時に非難出来る様にしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人に応じた対応策を考えている。	○	ユニットや皆で利用者方の状態を把握している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化に気付けるように努め、気付いた際には状態に応じ受診等をしている。記録に残し、兆候がみられる場合もしくは想定できる時等みんなに報告する。異常に気付いた時は速やかに上司などに連絡を取り、指示を仰ぐようにしている。申し送りをしたり気付いたことがあれば報告し、情報を共有している。体調に変化が生じた場合、緊急な場合は救急車にて病院に搬送、上司、家族に連絡。緊急以外の変化の場合は上司に相談し指示を仰いでいる。	○	・慌てずにどんな事にも対応出来る様にしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解や正確な服用に努めている。診療録にまとめ、スタッフ全員がいつでも見られるようにしてある。受診後は診療録を必ずみるようにしている。毎回、薬のチェックをしている。本や資料などで調べたり、効能書を読むなど努力しているスタッフが殆どである。かかりつけの薬局とも連携が取れており、疑問に思うことなども答えてもらっている。利用者の定期受診の際、変わった事があれば主治医に報告をし指示を仰いでいる。食後に服薬は渡しているが、薬の内容・副作用まで理解出来ていない。	○	一人ひとりの薬の種類、副作用ををしっかりと覚えて何が必要か確実にしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	しっかりと水分を摂ってもらえるよう心掛けている。運動については個人差がある。水分補給や運動、下剤等をその方に応じて日にちを決めて施行している。便秘の際は、排便が出来る様工夫している。センナ茶、処方された緩下剤、座薬、腹圧、水分補給等細めにする。バイタルチェック時排便回数を確認する。ラジオ体操は実施している。それ以外でも利用者個人で体を動かすようはたらきかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後きちんとできている方もおられるが一人で出来る方への声掛けが出来ていない。出来るだけ本人へしてもらいたい時、磨き残しがある場合は介助にて行なっている。(声かけ等含む)。毎食後に口腔ケアを行っている。一人で歯磨きの出来ない方には、声掛けて歯磨きをしている。義歯を洗ったり口腔内の残さ物をだしうがいする。口腔ケアの介助の必要な方には毎食後介助する。	○	・自立出来る人には、声掛けする様にしたい。・介助する時もあり自分で出来る人の見守り。・自立出来ている為毎食後口腔ケアをしてもらいたいがしない人がおられる。声掛けして全員がきちんと口腔ケアを実行されるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事・水分量共に記録にとり、必要量とられているか把握出 来るようにしている。1日の摂取量を決め出来る限りその量 を飲んでもらうにし、良く飲まれる時間帯等を把握し飲んで もらっている。水分量が少ないと思う時は出来るだけ取って もらえるようにしている。血糖値の高い人は食べる量を少な くする。糖分塩分控えめにする。水分補給においては毎食事 時、おやつ時、各自ペットボトルにお茶、さ湯を入れ居室に おいて摂取されている。	○	野菜を食べない人の栄養バランスや食べれる様工 夫したい。今の状態の維持。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決め があり、実行している（インフルエン ザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイル ス等）	手洗いなど出来ることから行なっている。清潔を保ち、早期 に受診等を行い予防に努めている。インフルエンザの予防接 種を受けている。外出から帰られた際には必ず手洗いうがい をしてもらう。インフルエンザの予防接種は実行している が、他の予防が実行されているかは否かは分からない。	○	感染症についての研修。手洗いうがいをこまめに して頂く様声掛けをする。予防方法を確認する必 要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場とし ての台所、調理用具等の衛生管理を行 い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努 めている	食器の消毒、台所の掃除等をするようにしている。1日分の 食材を発注し、その日の内に使ったり、器具に関しては消毒 を行っている。食器、まな板等を消毒している。食器、調理 用具、ふきん等を毎食後キッチンハイターで殺菌をしてい る。1日の最後に使わないのでわからない。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		近隣の人の出入りがないのでお願いしてみるのも良い。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	もっと居心地良く過ごせる様にしたい。玄関の下駄箱、スリッパの置く位置を考えたい。他の場所にも季節感を取り入れられたら良い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○	・思い思い過ごせる様にしたい。・気の合った者同士、独りになれる様な工夫がある。・畳の部屋をもっと利用していただけるようにしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	今の状態を続ける。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、よう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○	今の状態を続ける。プライバシーを守り、あまり居室に入る事を好まない利用者には換気の声掛けをしている。寒い季節でも換気できれば良い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない造りになっている。その方に合った介助方法を皆で話し合い、出来る事があった際は皆に伝え自らで行ってもらう。出来る事はしてもらう様にしている。廊下沿いに手すりがある。工夫されている。	○	居室にも手すりが有ればよい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに合わせた声掛けを行い混乱せず安心して暮せるように努めている。身の回りや自分で出来る事はしている。	○	自立して暮らせる様工夫したい。今のまま続けたい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に畑や花壇を作っている。庭へ野菜や花を植え、いつでも見れたり採取出来る様にしている。洗濯物を干している。花や野菜を植えたり駐車場を利用し行事を行う。野菜を作ったり、花を育てる事の好きな人たちが無理のない程度に楽しめる畑がある。	○	・皆が楽しんだり出来る様に活用したい。・今されている事を続けてもらいたい。



部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が生活の主体となれるように、日々の生活の支援をしている。(過剰な介護や支援にならないように気をつけて日々のケアをしている)利用者が思い思いにゆったりと過ごせるように努めている。利用者本意の介護を目指し、スタッフが日々のケアに取り組んでいる。毎月の行事を企画し、普段行けない所にも出かけることが出来る。